あとがき

『會津八一記念博物館研究紀要』第21号をお届けします。本号では、資料紹介７篇、2019年度の博物館活動報告を掲載しております。

1998年５月15日に開館した會津八一記念博物館は、本年度で開館21周年を迎えました。開館以来の収蔵品に加えて、今年度も多くの寄贈品を頂きました。年々充実するこれらの作品資料の紹介や調査報告を公開することは、大学博物館紀要としての責務であると痛感しております。

また、本年度も以下の通り各分野で特色あふれる企画展、特集展示を開催しました。

【企画展】

５月９日㈭～６月16日㈰：「ブブノワさんの絵画」
６月27日㈭～８月４日㈰：「ニューヨークに学んだ画家たち―木村利三郎を中心に」
10月１日㈫～11月10日㈰：「世界をつなぐやきもの」
11月25日㈪～１月18日㈯：「藍より青く　小杉一雄とその師父、會津八一と小杉放菴」

【富岡重憲コレクション展示室】

４月１日㈪～４月28日㈰：「絵画の名品」
５月20日㈪～６月30日㈰：「書の名品」
７月16日㈫～９月22日㈰：「染付」
10月４日㈮～11月18日㈪：「白隠と仙厓」
12月５日㈭～１月31日㈮：「中国の霊鳥・霊獣」

【特集展示】

10月１日㈫～11月10日㈰：「イメージの中の日本と中国の近代～ラップナウ・コレクションから」

以上のうち、「ブブノワさんの絵画」では、画家として大正期新興美術運動に影響を与える傍ら、ロシア語、ロシア文学の講師として教鞭を執り多くのロシア文学者を育んだワルワーラ・ブブノワの絵画を展示しました。「ニューヨークに学んだ画家たち―木村利三郎を中心に」では、2017年にご寄贈いただいた木村利三郎の版画および油彩画と、同時代にニューヨークで活躍した荒川修作、猪熊弦一郎、白井昭子らの作品約100点を展示しました。「世界をつなぐやきもの」では、早稲田大学最初のイスラーム考古学調査として学史上著名な都市遺跡アル=フスタート遺跡の出土品を中心に、館内の様々なコレクションに含まれる陶磁器を展示しました。「藍より青く　小杉一雄とその師父、會津八一と小杉放菴」では、画家・小杉放菴を父にもち、會津八一に学んだ研究者・小杉一雄の生涯を、師父のつながりを軸にしてたどりました。

また特集展示「イメージの中の日本と中国の近代～ラップナウ・コレクションから」はメディアにも取り上げられ、学内外より多くの注目を集めました。

以上のような活動を経て、施設・人員ともに新たな歩み出しとなる一年を無事終えることができました。これもひとえに日頃から当館の活動にご理解とご協力を賜っております皆様のおかげと感謝申し上げる次第です。今後も学生のみならず、地域の皆様、そして研究者の皆様に等しく開かれた存在として、さらなる発展を目指していく所存であります。皆様におかれましては、今後とも本館の活動に対する変わらぬご理解、ご支援の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

（紀要編集部 記）